

科目名	産業・組織心理学特講	担当者	タナカ ケンイチロウ 田中 堅一郎	期間	通年	単位数	4
-----	------------	-----	----------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講義では、心理学の応用領域の一つである産業・組織心理学の概要を理解し、最終的には産業・組織心理学で得られた知見が職場や家庭内での問題と具体的にどう関連しているかについて考えることを目的とする。</p> <p>I. 仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報を基に、論理的・批判的に考察できる。</p> <p>II. 問題を分析し、複数の解決策を提示した上で、問題を解決することができる。</p> <p>III. 経験や学修から得られた知識や教養に基づき、倫理的な課題を理解し説明できる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>心理学の応用領域を理解し、得られた知識を自分の所属する職場にどのように反映できるかを考え、改善策を提案する。</p> <p>【行動目標 (SB0s)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 産業・組織心理学における研究領域とその概要を理解することができる。 産業・組織心理学で得られた知見が、職場や家庭内での問題と具体的にどう関連しているか理解できる。 自分にとって最も関心のある産業・組織心理学のトピックについて討論し、レポートに纏めることができる。 		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> レポートの推敲過程において、Manaba-Folio の全受講者用の掲示板機能(「スレッド」)に届いた受講者からの質疑に対して応答し、その過程を受講生全員に公開する。 オープンエデュケーション教材(OER)を基本教材の補助として視聴する。 <p>【学修方略】</p> <p>指定された基本教材、および参考文献を読みこなし、レポートを作成する。それでも理解できない場合は、Manaba-Folio を通して適宜科目担当者に質疑をする。</p> <p>【学修時間】</p> <p>1つのレポート課題の完成までに最低45時間の学習時間を要するものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本教材および参考文献の読み込み：20時間 レポート課題の執筆：10時間 Manaba-Folio へのレポート課題提出後の推敲と最終稿の完成(担当教員の添削指導、ピア・レスポンスを含む)：15時間 		
スケジュール	<p>前期：基本教材1のレポート課題1：6月末を目処に初稿を提出できるように学習を進める。学事歴で定められた日までに最終稿を提出する。</p> <p>基本教材1のレポート課題2：8月中旬を目処に初稿を提出できるように学習を進める。学事歴で定められた日までに最終稿を提出する。</p> <p>後期：基本教材2のレポート課題1：11月中旬を目処に初稿を提出できるように学習を進める。学事歴で定められた日までに最終稿を提出する。</p> <p>基本教材2のレポート課題2：12月中旬を目処に初稿を提出できるように学習を進める。学事歴で定められた日までに最終稿を提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	79%	<ul style="list-style-type: none"> 最終提出期限内に提出されなかったレポート課題は、(原則的に)0点となります。 レポート課題の作成において、自分の興味・関心だけをエッセイのように文章を連ねていくのはご遠慮願います(こうしたレポートは評価の対象としません)。教材の引き写しは評価の対象外とします。
	観察記録	21%	<ul style="list-style-type: none"> 最終提出までにManaba-Folio 上でレポートの草稿の送信・返信を行ったかどうかで評価します。 草稿を一度も出さずにいきなり最終稿を出された場合、そのレポート課題の評価点は79点以下しか得られません。
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> レポート課題といえども、論文の体裁で書いて下さい。 いずれのレポート課題についても、本文に引用した文献名は、かならず文末の文献リストに掲示してください。その際、本文に引用した文献(引用文献)と、本文には引用しなかったがレポート作成に際して参考にした文献(参考文献)とは仕分けて示してください。 産業・組織心理学は心理学の応用領域の一つですが、心理学の「応用」領域を理解するためには、心理学の基礎知識や基礎的理論の理解が問われます。心理学の基礎用語が分からない場合は、「参考図書」に目を通してください。 		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>(1) 著者名： 外島 裕 監修，田中堅一郎 編 教材名： 『産業・組織心理学エッセンシャルズ 第4版』(ナカニシヤ出版，2019年) ISBN:978-4-7795-1385-5 2,900円+税</p> <p>(2) 著者名： ベイザーマン，M.H./ ムーア，D.A. 著，長瀬勝彦 訳 教材名： 『行動意思決定論 バイアスの罠』(白桃書房，2011年) ISBN:978-4-561-26563-4 3,800円+税</p> <p>教材1(1)の内容は「仕事への動機づけ」「人事評価制度」「人事測定の方法」「職場の人間関係と意思決定」「職場におけるリーダーシップ」「職場のストレス」「組織における協力と葛藤」「ヒューマンエラー」「キャリアの発達とその開発」「売り手と買い手の心理学」「心理学で用いられる統計の基礎的知識ガイド(特論1)」「産業・組織心理学史(特論2)」から構成されている。 教材(2)は，経営における意思決定について全11章から構成されている。</p>
参考図書	<p>中島義明ほか編『心理学辞典』(有斐閣，1999年) ISBN:978-4-64-100259-3 6,800円+税 下山晴彦ほか編『誠信 心理学辞典[新版]』(誠信書房，2014年) ISBN:978-4-414-305074 6,264円 高木修 監修，田尾雅夫 編集『組織行動の社会心理学(シリーズ21世紀の社会心理学2)』(北大路書房，2001年) ISBN:978-4-76-282224-7 2,500円+税 ロバート・B・チャルディーニ『影響力の武器 なぜ人は動かされるのか[第三版]』(誠信書房，2014年) ISBN:978-4-41-430422-0 2,700円+税</p>
履修上のポイント	<p>参考図書に示された『心理学辞典』『誠信 心理学辞典[新版]』をもとに，分かりにくい専門用語を確認したり，心理学関連の他科目も学習することが望ましい。</p>
レポート課題1	<p>基本教材1の(1)について，1章から10章の各章を要約し，全体についてのコメントを述べること。 留意点：各章を800字以内で要約し，全体についてのコメントを付記すること(合計10,000字以内で収めること)。</p>
レポート課題2	<p>基本教材1の(2)について，1章から10章の中から，自分の興味・関心のあるものを1章選び，その章の内容を自分の興味・関心の高い事柄を中心に，3,000字～4,000字でまとめること。 留意点：参考図書もレポート作成の必要に応じて引用すること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 森下高治ほか 著 教材名： 『クローズアップ メンタルヘルス・安全(現代社会と応用心理学4)』(福村出版，2015年) ISBN:978-4-571-25504-5 2,400円+税</p> <p>本書は，メンタルヘルス，ヒューマンエラー，リスクマネジメントに関して応用心理学の視点から，20のトピックを中心に3章から構成されている。</p>
参考図書	<p>中島義明ほか編『心理学辞典』(有斐閣，1999年) ISBN:978-4-64-100259-3 6,800円+税 金井壽宏『キャリア・デザイン・ガイド』(白桃書房，2003年) ISBN:978-4-56-123386-2 2,100円+税 谷口弘一・福岡欣次『対人関係と適応の心理学 ストレス対処の理論と実際』(北大路書房，2006年) ISBN:978-4-76-282527-9 2,400円+税 坂野雄二 監修『学校，職場，地域におけるストレスマネジメント実践マニュアル』(北大路書房，2004年) ISBN:978-4-76-282408-1 2,800円+税</p>
履修上のポイント	<p>基本教材1と内容的には重複している箇所もあるが，内容的には(基本教材1と比べて)やや臨床心理学や安全工学との関連が強い。しかし基本教材1の内容が十分理解されていれば，教材2はさほど晦渋とは感じられないと思われる。</p>
レポート課題1	<p>基本教材2の第3章を要約し，全体についてのコメントを述べること。 留意点：各節を3000字以内で要約し，全体のコメントを付記すること(合計9,000字以内で収めること)。</p>
レポート課題2	<p>基本教材2を構成する20のトピックの中から，自分の興味・関心のあるものを1つ選び，その内容を当該書に示された「引用・参考図書」も参照しながら，3,000字から4,000字でまとめること。 留意点：参考図書もレポート作成の必要に応じて引用すること。</p>

基本教材 1

第 1 回	教材に基づく学修(1)	仕事への動機づけ (1 章)
第 2 回	教材に基づく学修(2)	人事評価制度 (2 章)
第 3 回	教材に基づく学修(3)	人事測定の方法 (3 章)
第 4 回	教材に基づく学修(4)	職場の人間関係と意思決定 (4 章)
第 5 回	教材に基づく学修(5)	職場におけるリーダーシップ (5 章)
第 6 回	教材に基づく学修(6)	職場のストレス (6 章)
第 7 回	教材に基づく学修(7)	組織における協力と葛藤 (7 章)
第 8 回	教材に基づく学修(8)	ヒューマンエラー (8 章)
第 9 回	教材に基づく学修(9)	キャリアの発達とその開発 (9 章)
第 10 回	教材に基づく学修(10)	売り手と買い手の心理学 (10 章)
第 11 回	教材に基づく学修(11)	基本教材 1 の内容を参考文献で確認する
第 12 回	レポート課題の作成(1)	レポート課題 1 の草稿作成と教員の指摘事項を受けて内容を再検討する
第 13 回	レポート課題の作成(2)	レポート課題 1 の最終レポート作成
第 14 回	レポート課題の作成(3)	基本教材 1 から 1 章を選択し、レポート課題 2 の草稿を作成して教員の指摘事項を受けて内容を再検討する
第 15 回	レポート課題の作成(4)	レポート課題 2 の最終レポート作成

基本教材 2

第 1 回	教材に基づく学修(1)	災害と避難行動 (トピック 18)
第 2 回	教材に基づく学修(2)	災害のトラウマと心のケア (トピック 19)
第 3 回	教材に基づく学修(3)	災害看護 (トピック 20)
第 4 回	レポート課題の作成(1)	レポート課題 1 の草稿作成と教員の指摘事項を受けて内容を再検討する
第 5 回	レポート課題の作成(2)	レポート課題 1 の最終レポート作成
第 6 回	教材に基づく学修(4)	労働をとりまく今日の問題 (トピック 1), 働く意味とは (トピック 2)
第 7 回	教材に基づく学修(5)	ストレス (トピック 3), ソーシャルサポートとバーンアウト抑制 (トピック 4)
第 8 回	教材に基づく学修(6)	ストレスコーピングの実際 (トピック 5), 新型うつ (トピック 6)
第 9 回	教材に基づく学修(7)	過労死 (トピック 7), メンタルヘルスケア (トピック 8), 復職に向けて (トピック 9)
第 10 回	教材に基づく学修(8)	キャリアとワーク・エンゲージメント (トピック 10)
第 11 回	教材に基づく学修(9)	産業におけるリスクと安全 (トピック 11), 事故とヒューマンエラー (トピック 12)
第 12 回	教材に基づく学修(10)	交通事故と交通コンフリクト (トピック 13), ハザード知覚とリスクテイキング (トピック 14)
第 13 回	教材に基づく学修(11)	交通参加者の行動 (トピック 15), 運転態度 (トピック 16), 安全教育と効果 (トピック 17)
第 14 回	レポート課題の作成(3)	基本教材 2 からトピック 1 つを選択し、レポート課題 2 の草稿を作成して教員の指摘事項を受けて内容を再検討する
第 15 回	レポート課題の作成(4)	レポート課題 2 の最終レポート作成